

佐久間の民話 興味津々

家康をかくまった、桶屋の話など

静岡文化芸術大（浜松市中央区）の伝承文学ゼミの学生らが、同市天竜区佐久間町で地域に伝わる物語や伝説の調査を始めている。佐久間町は長く「民話の郷」を名乗ってきた町。新たな発見を掘り起こす調査はたやすくなく、学生らは意欲的に取り組んでいる。（野瀬井寛）



文化芸大生 住民に聞き取り調査

「家康をかくまったという桶屋さんの話があるよ。今は廃屋になってるんだけど」。住民の女性がふと思いついたように口を開くと、学生は「どんなお話なんですか」と身を乗り出して耳を傾ける。「家康が助かったから、それで桶屋さんは後片付けをしなくていいことになったらしい」。話を聞くと、学生は笑顔でうなずきながらメモをとっていた。

住民から民話を聞き取る静岡文化芸術大の学生（右側2人）＝浜松市天竜区佐久間町で

高淵さんは「初めはお互いに緊張したが、少しずつ話してもらえようになった。同じ物語でも、話す人によって違いがあると、ころがおもしろい」と、さらに興味を引かれたという。住民の大平友恵さん（95）は「これまで家族からいろいろな話を聞いてきた。自分ではうまく話せないこともあったが、しっかりと書き取ってもらえたので話してよかった」と喜んだ。

佐久間町の調査は2～3年間の予定で、本年度は城西・山香地区を対象にする。指導する二本松康宏教授によると、佐久間では1980年代に昔話を集めた書籍が出版され、伝説ゆかりの場所に多くの案内看板がある。資料が豊富な反面、編集の過程で伝承が変化している可能性もあった。「だが実際に聞いてみると、本にまとめられた話と少しずつ違う話が出てきた。地域ごとの特色も見えてくるのでは」と期待する。

ゼミでは2014年から毎年、天竜区各地の民話を調査し成果を出版している。